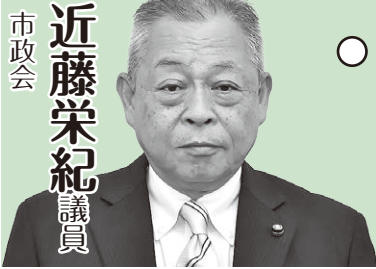


○ 雪害対策について



市議会

近藤栄紀 議員

**問** 1月の大雪で、作業を担う建設業界は、人手不足と高齢化が深刻化している。オペレーターの育成同様に、業者そのものの育成が必要ではないか。

**答** オペレーター数は、2018年の191名に対し、2021年は189名で大きな減少はないが、早朝除雪の作業時間が長くなり、交代要員がいない中で、除雪業者や作業を担うオペレーターの方々には大きな負担となった。

今後は、暖冬時でも業者が影響を受けないよう、また、予想される人材不足や高齢化も踏まえ、オペレーターの人材育成支援や人件費を保証する制度について継続して研究し、国や県に対して強く要望していく。

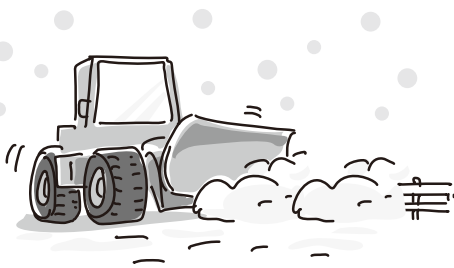
**問** 今回の大雪で、融雪装置が有効に作動しなかった地区、除雪車が入れなかった地区は、区長が中心に自主的に、市道や狭い道路の除雪をしている。

今後、このような場合、

市に代わって市道等の除排雪に協力した地区を対象に補助金を検討する考えはないか。

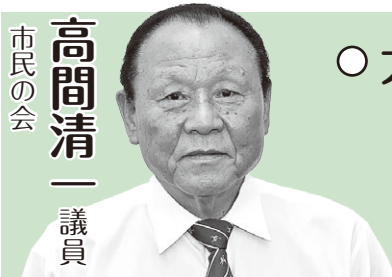
**答** 各地区や各自防災組織への補助金については、各地区が冬期間の道路の安全な通行確保のために行う除雪活動に対して支援する「勝山市除雪活動費助成金」制度があり、今年度は、29区に助成した。

しかし、今冬のように雪害対策本部等が設置されるような大雪時には、地区の負担が大きくなることから、助成の拡充を検討していく。



一般質問Q&A

○ 大雪時における除雪体制について



市民の会

高間清一 議員

その他の質問

- ・屋根雪下ろしについて
- ・市内小中学校の再編について

**問** 本年1月8日からの大雪は、平成30年2月の大雪に迫る激しい降り方となり、生活必需品の不足（食料等）の品切れが相次いだ。また、除雪用重機に使用する燃料（軽油）の確保がでなくなってきた。今回、この軽油について質問したい。

**答** 勝山市は嶺北石油組合災害時応援協定を結んでおり、災害時には嶺北石油組合員の協力を求めることができる。しかし、今回のように市外からの輸送が滞るようなケースでは、市内全体の軽油量が不足することになる。

道路状況が悪くて福井臨港の備蓄基地から勝山までの輸送ができなかったということ。私は、市内の石油業者をお願いをし、福井市にある輸送基地まで小型ローリーで往復してもらい、何とか軽油を確保したが、莫大な時間を要した。そこで、市内の石油業者に協力してもらい、石油タンクの切り替えにより、軽油の備蓄量を増やす案。これで約60キロリッターの量を増やすことができる。市内の石油業者に打診したところ、前向きな返事をいただいている。

市としても石油業者をお願いし、備蓄量を増やす案。このことについて市の考えはどうか。

